松方正義と別府港

矢島嗣久

松方正義は薩摩藩の出身である。

正義は日田県知事として別府楠港の開港を積極的に進めた人物で、のち近代日本を代表する財政家であり、首相を二度勤めている。

一　出生と生い立ち

松方正義は、天保六年二月二五日（一八三五年三月二三日）に、鹿児島城下下荒田村に、松方正恭（まつかたまさゆき）、袈裟子の四男として生まれた。

正義は十歳で家が破産し、十一歳で母を、十三歳で父を失い、赤貧の中、東郷長左衛門の指導のもと、文武に精励した。弘化四年（一八四七年）、薩摩の武士の子弟が通う藩校造士館に入る。幼名は金次郎。通称は助左衛門。

二　薩摩藩士時代

正義は島津久光に近習番として仕え、その関係で大久保利通に認められる。

嘉永三年（一八五〇年）、御勘定所出物問合方へ出仕した。この後、大番頭座書役となり、七年間勤める。島津久光は江戸末期の薩摩藩主忠義の父。斉興（なりおき）の五男。斉彬（なりあきら）の異母弟。

文久二年（一八六二年）、正義は島津久光の上洛と幕政改革を目的とした江戸への往復に随行した。

京都の南郊、伏見の薩摩藩船宿寺田屋（現京都市伏見区京橋）において、文久二年（一八六二年）四月二三日、薩摩藩内部の激突事件が発生した。正義は久光の側近、大久保利通派として寺田屋事件にも関係していた。

江戸から薩摩への帰途に起こった生麦事件（文久二年八月）に際しては、正義が久光の駕籠側にあって、身をもって主君を

松方　正義

護り、久光の信任を得た。翌三年、正義は御小納戸役を拝命、その後、集成館掛兼務などを命じられた。御小納戸役とは小姓につぐ君側の職をいう。集成館とは江戸時代末期の薩摩藩の洋式工場のことである。

慶応二年（一八六六年）、軍務局海軍方が設置され御船奉行添役と御軍艦掛に任命される。翌三年、軍賦役兼勤となり、長崎と鹿児島を往復して、軍艦の買い付けなどに当たった。

戊辰戦争の際は、長崎において各国との会談を通じ、通商貿易の安定をはかった。戊辰戦争とは、慶応四年（一八六八年）の鳥羽伏見の戦いから明治二年（一八六九年）の函館五稜郭の戦いで榎本武揚らが降伏するまでの戦いをいう。

三　日田県知事時代

慶応四年（一八六八年）閏四月、日田天領は日田県となり、閏四月二五日に薩摩藩の松方助左衛門（正義）が初代の日田県知事に任命された。松方は六月一一日、九人の供を連れて日田に着任した。八月二一日、豊前、豊後の天領で諸藩に預け地となっていた村々が、日田県に編入された。このとき別府の村々も新政府直轄の日田県となった。

この年の九月八日、慶応は明治と改められ、明治元年（一八五八年）となる。

初代日田県知事松方助左衛門

国東、速見、大分、直入郡の肥後藩預け地の日田県への引き渡しが終わったのは、明治元年十月二四日であった。肥後藩兵の引きあげによって防備が手薄になった日田県では、郷兵による兵隊をつくることになった。翌年二月には隊名を松方県知事の名前をとって「正義隊」とし、三月末までに隊員五〇名ほどの編成を終えた。別府の正義隊の本営は西法寺（中央町九）におき、隊員にはライフル銃などを持たせた。

慶応四年閏四月、新政府は太政官札の発行を決定した。その運営のために設けられたのが、大阪府の商法会所や日田県の生産会所である。

政府直轄の日田県では、松方県知事の着任五ヵ月後の明治

元年十一月（慶応四年九月八日、明治と改元）、日田隈（くま）町に日田生産会所を設けている。ついで二年一月、県下の別府、四日市にも生産会所を開いた。

明治二年正月、日田県知事松方正義は県下視察のため山香、小浦（現日出町豊岡）を経て二十日午後、別府へ着き南町の「荒金たばこ屋」に宿をとった。前年六月、日田県へ赴任した県知事にとって、管内の民情を知るという目的のほか、「富国の基礎」をつくる資金として、政府が発行した太政官札の貸付先をさがす目的もあった。太政官札とは、明治元年（一八六八年）維新政府が発行した不換紙幣のことをいう。

四　別府楠港築港

別府には、以前から十五間（二七メートル）ほどの防波堤のある港があった。

もっと大きい港をつくり海上交通の便を図れば、別府の発展が期待できる。太政官札を貸し付けることによって、政府の政策も実施できる。こうして松方知事は、別府生産会所設立の有力者らに別府築港を働きかけた。相談を受けた人々は、劉藤兵衛、森荘八、間藤幸右衛門、佐藤和平治、ほかに別府の有力者である府内屋の日名子太郎兵衛、米屋の堀清左衛門、若松屋の松尾彦七、計屋の大野六兵衛らである。築港の設計は波戸場一六〇間（二八八メートル）、受波戸六〇間（一〇八メートル）、総工費一万二二九四両という計画である。明治二年十一月、日田県から許可され、公費八〇〇〇両の貸し付けも許された。翌三年二月から工事に着手したが、許可をえて、堤防を二〇間ほどひろげることになった。工事に使用する石は高崎山の一部を掘ったり、日出町豊岡の石を利用した。そのため工事費用が膨らんだ。九月におそった台風のため被害を受けた。更に六〇〇〇両を借り、翌四年五月に完成した。防波堤の東西一〇〇間（一八〇メートル）、南北八〇間（一四四メートル）の港である。工事費の総額は二万両となった。

港の安全を祈願して、港の西北の地に気長足姫（おきながたらしひめ）ほか六神を祀る波止場神社が建立された。同神社は漁業を含む海運事業全般の安全、港町別府の繁栄等幅広い縁起がうたわれている。

別府港はその後、明治八年（一八七五年）八月、同

二六年（一八九三年）十月にも台風に遭い、そのつど修築、同三八年（一九〇五年）にも大分県の手で改築工事が加えられた。

別府築港のため借りた政府資金のうち、一万七八五〇両は明治二三年（一八九〇年）二月に毀損となっている。

明治元年（一八六八年）、松方助左衛門（正義）は、民政革新と中央政府に対する多くの権限によって業績を認められ、大久保利通の評価も得た。

波止場神社境内には、明治四〇年（一九〇七年）に周辺の玉垣や鳥居が造られた。大正二年（一九一三年）には「別府築港之碑」が建てられた。この碑の文字は松方正義の揮毫である。碑文によれば総工費二万両、東西一〇〇間、南北八〇間の防波堤を築き、明治六年（一八七三年）初めて「益丸」（一八トン）が就航したとある。

五　松方正義の中央での活躍

日田では松方は大量の太政官札の偽札流通を発見して偽札製造の事実を明らかにしたことで、大久保利通の評価を得て、その推挙で民部大丞・租税権頭に就任する。

明治三年（一八七〇年）閏一〇月、松方は民部大丞として栄転する。松方の後任に長崎県知事野村宗七（盛秀、薩摩出身）が任命されたのは、同三年一二月二八日であった。知事空白期間が二か月余に及んだ。日田県一揆の爆発と二豊一円への波及は、その間の出来事であった。

正義は明治七年（一八七四年）には、大蔵省官僚として財政畑を歩み、租税頭に昇進して、地租改正事業の完成に尽力した。しかし、財政方針をめぐって大蔵卿大隈重信と対立する。大隈の外債による政府発行紙幣の整理に反対したのである。その結果、正義は内務卿に転出したが、明治一四年（一八八一年）の政変によって大隈が退陣すると、参議兼大蔵卿として復帰した。松方は松方財政と呼ばれる金融政策に取り組み、日本銀行の設立を経て財政収支の改善に取り組んだが、「松方デフレ」と呼ばれて世論の反発を買った。

正義は明治維新政府では日田県令（知事）から日銀総裁、大蔵大臣、のち総理大臣に就任した。

松方正義の「我に奇策あるにあらず、ただ正直あるのみ、正直にこれを行えば人民必ずこれを信せん」という言葉は有名である。

六　松方正義内閣時代

明治二四年（一八九一年）に山形有朋内閣の後を継いで第一次松方正義内閣（一八九一年五月六日～一八九二年八月八日）を組織した。その後、明治二九年（一八九六年）にも伊藤博文内閣の後を継いで第二次松方正義内閣（一八九六年九月一八日～一八九八年一月一二日）を組織したが、いずれも一年有余の短命に終わった。松方は得意な財政に反して政治手腕には欠けるところがあった。

しかし、松方への明治天皇からの信頼は絶大であった。彼は日露戦争の開戦（明治三七年、一九〇四年）による財政も懸念する伊藤博文・井上馨らに反論して元老会議を主導した。この功績が明治天皇から認められ、戦後異例の大勲位受章となった。伊藤・山形らの死後は元老を主導する立場となり加藤友三郎内閣の成立などに貢献した。

七　正義の子孫

正義は非常に子沢山で、一三男、一一女の二四人を設けていた。ある日、明治天皇から「何人子どもがいるのか」と尋ねられたが、とっさに思い出せず、「後日調査のうえ、御報告申し上げます」と奏上したという。

妻満佐子は薩摩武士川上助八郎の長女で、四男一女の子を産んだ。三人の側室の子供たちも一緒に養育している。

松方正義は大正一三年（一九二四年）七月二日に死去し、国葬に処された。享年九〇歳。

正義の長男巌は実業家で、第一五銀行の頭取。次男の正作（外交官）の妻は三菱財閥創始者岩崎弥太郎の弟で二代目総帥岩崎弥之助元日本銀行総裁）の娘である。三男で実業家の幸次郎は、フランス美術品の松方コレクションを収集している。昭和四一年（一九六六年）一一月一二日、大分市内の大分文化会館で松方コレクション展が開かれた。

プロフィギュアスケーターの八木沼純子は七男、乙彦の曾孫に当たる。

一三男の三郎は登山家及び実業家で有名、松方家第三代の党首でもある。

正義の孫娘、八男正熊の娘ハルは、エドウィン・O・ライ

シャワー、アメリカ駐日大使の妻である。ライシャワー大使は、一九六一年（昭和三六年）から六六年（昭和四一年）まで駐日アメリカ大使を務めている。

なお、松方一族は現在数百人の会員からなる「海東会」という一族会を形成している。

八　その後の波止場神社

平成二〇年（二〇〇八年）七月九日、明治四年（一八七一年）別府港築港を記念して創建された新宮通り沿いの「波止場神社」で夏季例大祭が行われた。例大祭は創建一三七年を経て老朽化が進む同神社の再建を目指す波止場神社再建奉賛会（林　義満会長）が呼び掛け、関係者七〇人が集まった。神事の後、別府木遣（きや）り三本締めを行い盛り上げた。翌日の一〇日は最後の神事が執り行われた。波止場神社社殿は解体工事を経て新築再建される予定である。

九　その後の別府港

昭和三三年（一九五八年）、別府国際観光港が供用開始。

昭和四一年（一九六六年）、関西汽船が楠港から観光港に移転する。

昭和四二年（一九六七年）、別府国際観光港が全面開始。

平成二年（一九九〇年）から平成四年（一九九二年）にかけて楠港を埋め立てる。

平成一九年（二〇〇七年）、別府楠港跡に商業施設「ゆめタウン別府店」が開店する。

引用、参考図書

インターネット

『日本史辞典』角川・第二版

『別府市誌』昭和六〇年版

『別府市誌』第二巻、平成一五年七月

『文芸春秋』平成一七年八月号

今日新聞

別府ふるさとガイド、インターネット、村松幸彦